

ると、痛みはさらにひどくなりました。

数か月後、夫婦は、いくらたつても病気がよくなるないので、あの大石のたたりにちがいないと、自分たちのしたことをふかくくい、なみだをながし大石にゆるしをこいしました。すると、「きよめてくれー。酒で洗ってくれー。」と、大石の声がかえりました。夫婦は、いわれたように酒をよういし、心をこめて、大石をすっかりと酒で洗いよめると、痛みはなくなり、病気はまもなくなおってしまいました。それから、この夫婦はまじめになり、酒もぷつぷつとやめて、毎日この大石を酒で洗いよめるのを日課としたそうです。

この高さ五メートル、幅四メートルの、自然石の大石は、村の人から取上石とよばれるようになり、子供のできない夫婦は、二人そろって酒で大石を洗うと、子供ができるといわれるようになりました。また、お産の前に、取上石をさするとなん産からのがれられるとも、いわれるようになりました。

そして、いまでも、田植えの前になると、おみきと赤まんまをおそなえし、安産と